地域おこし協力隊だより ⑮

本市では現在、14人の地域おこし協力隊が地域活性化のため、それぞれの活動に従事しています。今月は、その中から任期の最終年である3年目の活動を迎えている中村洋さんを紹介します。

農業支援員
中村（なかむら） 洋（ひろし）さん

新天地を求めて

自然に囲まれた環境で農業に携わりたいと考えていた私は、市の移住体験に参加しました。

実際に『深川暮らし』を体感してみると、その景観の良さや食べ物のおいしさなどに魅了され、この場所で暮らしたいと思うようになり、深川へ移住することに決めました。

憧れた職業

移住体験中に、㈱深川未来ファームでお世話になっていたこともあり、令和3年4月、同社を拠点に農業支援員としての活動をスタートさせました。

主な活動内容はキュウリの栽培で、これまで農業の経験がなく、北海道での暮らしも浅かった私にとっては、ハウスの温度調整など、苦労する点が多かったですが、その都度、周囲の方に助けられながら地道に努力を重ねてきました。

今では栽培技術のほか、北海道の気候とも上手く付き合えるようになり、特に昨年は、異例の暑さが続く中、収穫量が落ちてしまったり、規格外の商品が増えたりする大変な年でしたが、柔軟に考え行動し、無事に出荷までつなげることができました。

自分が栽培したキュウリをみなさんに届けることができ、ホッとしたのを覚えています。

試験栽培

活動2年目からは、より多くの作物について学ぼうと考え、会社の敷地を借りて、自主的にトウモロコシの試験栽培に取り組みました。今年は規模を広げ、昨年の反省や研修会などで得た知識を活かし、風除け対策や害虫防除などにも力を入れ、収穫量を増やすことに成功しました。

これからの目標

間もなく、地域おこし協力隊として任期は終了しますが、退任後も深川市に残り農業法人で働くための準備を進めています。

地域おこし協力隊としての活動中は、生産者の立場で農作業を経験し、農作物を作ることがいかに難しいか身に染みましたし、何事も地道な作業の繰り返しこそが成果につながるということを学ぶことができた3年間でした。

また、研修などでたくさんの人たちと交流を深めることができたのは私の宝物ですし、自分が得た農業の知識や経験は未来に伝えていきたい思います。仕事もプライベートも楽しみながら、新たな職場でも挑戦し続けます。

地域おこし協力隊に関する問い合わせは
まち未来推進課地域創造係
（☎26・2246）

キュウリ栽培の流れ

step1 鉢上げ

step2 定植

step3 整枝作業

step4 収穫